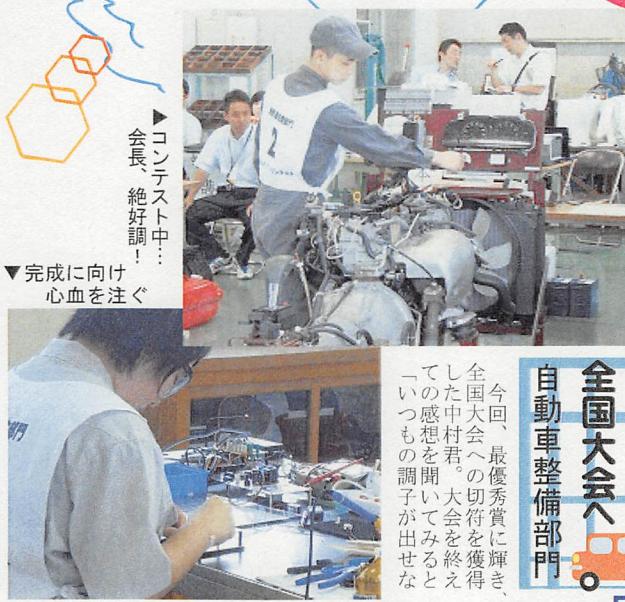


五業子

NO. 085  
—発行日—  
013. 08. 09

長崎工業高校新聞部  
—発行—  
長崎工業高校新聞部

## 全国大会へ。



# ものづくりコンテスト 九州大会 全力を尽くす

一自動車整備  
全国へ

七月十三日と十四日に行われた高校生ものづくりコンテスト九州大会。大分県大分高等技術専門校で開催された自動車整備部門にP3の中村正敏君・鶴崎工業高等学校で開催された電子回路組立部門にJ3の中島みりさんが出場。中村君が見事、最優秀賞に輝きました。

最近、気になつていいことがあります。テレビのバラエティ「番組を見ていく」ときのことです。番組全体としては、「見ていて楽しくてボケに対するツッコミで『死ね』という言葉を耳にする」ことがあります。それを見聞く度に、心に何かがつらくなったり、いたような気がになります。友達同士の会話の中でも、ふざけて「バカ、アホ」といふ気持ちになります。

そういうことがあります。が、信頼感があつた上での親しみのこもつた発言です。私が見た番組の中の人達も、もししかしたらそうなのかも知れませんが、それでも抵抗感があります。死ね」という言葉は相手の存在をすべて否定するような、易ても冷える言葉です。安易に使われる言葉ではありません。今日は八月九日です。原爆が落とされ、長崎で広島で、一瞬のうちに多く

くの方が亡くなりましたが、戦地でも多く人が亡くなっています。生きた人が戻らなくなつた、身近な人との永遠の別れがすぐ隣にあつた時代が私たちの祖父母の時代か私たちは生まれたのです。今、高校生の私たちが「死」に直面することは滅多にありません。それだけに真剣で「生きること」と「死ぬこと」「命」と「真剣」に向き合って考える機会が減っています。平和に暮らせる今の日本。そのような平和はかけがえのないものであります。

えの「ないもの」です。だから、その重さを「考える必要がある」と思っています。

いじめによる自殺や中学生・高校生による殺人事件がニュースでよく見受けられます。もつと深く見て考えていくべき、そんな悲しい事件も減っていくのではないか、手は抜いてしまう方次第で花にも刃になる言葉平和を祈る今日、言葉の重みを改めて考えてみませんか。（大崎）

# 一日の一枚

~余裕第一~



#### ▲ 悪む新聞部員

蒸し暑い日が続いていますが、みなさんお元気でしようか。先日一しおかぜ縁文祭が終了した。急かせつけるかと思えば、新聞の発行が私たちを急かす。急忙げば怠るほど良い文を書くのが難しい。何事にも「余裕が大切」な事です。夏休み、前半は課外活動に追われ、後半は高校生のみならず、自分たちをやつと学びました。(畠道)

**最近話した?**

後の中村君  
いさりつ運動

こんにちは、「宿題  
もう終わるわ」が言つ?  
てみた衣葉第一位の私  
です。夏休みも中盤。皆  
さん、いかがお過ごしで  
よろか。私は暇を見つけ  
ては朝晩間わず寝眠を貪  
ることに努めています。  
どうぞお気持

(やつたね)「そして嬉しさのあまり返しに詰まつたまま人混みに流される私だ。ちなみにその後は挨拶されたことはありますせん。悲しいわあ。」  
挨拶と言えど、先日行われた新聞部門参加兼スタジオ祭。新聞部門でラジオ番組として挨拶しつぶなシフツとして挨拶しつぶなしでした。予期せず国際交流も。開会式の会場で速報新聞を配布していた私は、この人に近づいてきた韓国人の先生をもいてきたる

A black and white photograph showing a group of students in school uniforms walking through a hallway. One student in the foreground is carrying a backpack and has a red stamp on their back. Another student is looking back over their shoulder at the camera. The background shows other students and parts of the school building.

この次はもっと  
笑顔がほしいな長生き

参加した保護者の方から  
は「息子に『長工で良か  
つたね』と言いたい」と  
コメント。今年はとても  
穏やかな雰囲気の懇談会  
となりました。

この次はもっと  
笑顔がほしいな長五生